



大妻女子大学

総合情報センター
年報

第1号



2008年度

総合情報センター一年報 第1号 目次

大妻女子大学総合情報センター一年報 発刊にあたって	
総合情報センター所長 栗原 裕	2
総合情報センターの任務と業務	
総合情報センター事務局 部長 滝本晴男	3
2008年度総合情報センター業務報告	4
2008年度総合情報センター〈図書館グループ〉業務報告	
図書館グループ 課長 石川理恵子	6
2008年度総合情報センター〈メディア教育開発グループ〉業務報告	
メディア教育開発グループ 課長 榊渕富士子 多摩総合情報センター 課長 山下恭子	16
2008年度総合情報センター決算報告	21
2009年度総合情報センター事業計画予算採択結果について	22
2008年度総合情報センターの組織とスタッフ	23
大妻女子大学総合情報センター規程	24
大妻女子大学総合情報センター運営委員会規程	25
総合情報センター図書館グループ及びメディア教育開発グループ沿革	26
総合情報センターが管理する学内施設・設備一覧	28
2008年度総合情報センター運営委員	32

●●● 大妻女子大学総合情報センター一年報 発刊にあたって ●●●

総合情報センター
所長 栗原 裕

平成20年4月1日、図書館と情報メディアセンターとが合併統合して、総合情報センターが発足した。もう少し正確に言えば、情報メディアセンターに所属していた計算機部門でネットワーク関連の業務を担当していた一部が離脱し、大妻学院のIT化推進部門に吸収され（こちらは現システム管理室として学院の包括的システム管理にあっている）、旧情報メディアセンターの残る部分が、メディア教育開発センターという実態に即した新しい呼称を得、図書館と合併統合することで、総合情報センターという一大組織が生まれたのであった。

総合情報センターを構成する図書館とメディア教育開発センターとは、一方は印刷メディアに重点を置き、他方は電子メディアに重点を置くという基本的な姿勢に差はあるが、すでに両メディアは相互に独立排他でなくなって久しく、組織もまたその状況を後追いする形となった。「情報資源の活用・開発と情報管理の整備・効率をはかる」というのが、設置答申の文言である。組織統合を果たしたことが重要で、これによって両部門、両メディアの協働協力をいっそう強化しようというのである。

これにともなって、もう一つの改変点があった。総合情報センターの所長を除くすべての職員が事務局組織のなかに位置づけられることになったことである。すなわち、図書館およびメディア教育開発センターが独立孤立した職域ではなくなり、事務局組織内の他の部署とのあいだに異動交流が始まったことである。

総合情報センター設立にともなう組織の総合と人員の交流は、これより先になされた事務局組織の改編と軌を一にしている。事務局組織内各部署の閉鎖性を打破し組織一新をはかるために、それ以前の部課制を廃しセンター・グループ制をとることにしたのであった。類似のことが教育研究組織においても進行している。現行大学院4研究科が統合されて、平成22年度には人間文化研究科という一大組織（内部に専攻・専修を置く）となる。附置研究所の組織改変と呼称変更も全学的参加協力を容易にし活動を活発にしようという狙いからなされたのであった。これらはすべて同じ考えに貫かれた組織変更である。

総合情報センターは先生方ならびに学生諸嬢の教育と研究に直接深く関与するところが特徴で、このことは以前の図書館および情報メディアセンターのときと変わらない。したがって、組織上も、教授職の所長と、管理運営の大綱を審議し決定する運営委員会（教授職と事務職とからなる機関）とを備えている。

新組織、新体制が起動し、1年が過ぎた。本報告書は総合情報センター最初の1年間の活動の記録である。お目をお通しいただき、ご助言をお寄せいただければ幸いである。内部的には、この記録は日記と同じ、自己を対象化するための手だてであるとも考えている。

● ● ● 総合情報センターの任務と業務 ● ● ●

総合情報センター事務局

部長 滝本晴男

1. センターの目的

総合情報センターは、平成20年4月1日に、それまでの図書館と情報メディアセンターが改組・統合し、新たに誕生した組織で、本学における教育・研究機能を充実、発展させるための様々な活動への支援と、学生サービスの向上に向けた情報資源の活用・開発や、情報管理の整備・効率化を担うことを目的としています。また、その目的を達成するために、図書館とメディア教育開発センターの2つの下部組織を擁し、特にメディア教育開発センターは、それまで情報メディアセンターが担ってきた学内インフラ整備や事務処理関連データ処理に関する業務を切り離し、教育・研究活動に関するICT(Information & Communication Technology)に特化した支援組織となっています。

2. 二つの下部組織

図書館は、高度情報化社会における図書・雑誌・各種資料・電子資料・データベースなどの整備・収集と一元管理を行い、それらに適した利用環境を提供します。さらに、近年大きな問題となりつつある、著作権に関する業務を新たな柱とし、学内の著作権に対する意識を喚起する目的で、新センター発足直後から著作権関連の相談受付業務を開始、授業時に使用する書籍や映像・音声などの著作物に関する相談に対応しています。また、紀要などの電子化公開、あるいは機関リポジトリの構築に向け、手始めとして、本学教員の研究者情報データベース作成にも携わっています。

メディア教育開発センターでは、様々な教材制作や視聴覚教室、情報処理教室などの管理・運用業務の他、ICT—コンピュータ・メディア・情報—が関わる分野での大学教育に対する支援と開発を行います。また、従来、情報メディアセンターが行ってきた業務の見直しを行いながら、新たに授業のアーカイブ化やブレンド型eラーニング、遠隔授業に関する業務に向け、すでにこれらの業務に必要とされる各種システムの調査を開始、また、システム導入後を見据えて、そのシステム上で使用する教材や、教材制作のために必要な情報の収集についても活動を開始しています。

更に、これまで別組織として歩んできた2つの組織が1つに統合されたことのメリットを活かす試みとして、両組織が得意とする分野での協働業務—本学所蔵の貴重本や創立者関係資料の電子化、それらのWeb上での公開—を企画しています。すでに貴重本の一部については電子化を完了しました。

3. 教員組織との連携・協働

総合情報センターは、教育・研究活動への支援組織として更なる発展を遂げるべく、教員組織との連携も視野に入れ、新規業務に益々重点を置きつつ業務を遂行する予定でいます。

図書館では、図書・雑誌・電子資料・データベースなどの整備・収集及び一元管理を通し、教育・研究に必要な情報を提供するための専門家(Academic Librarian)集団となること、また、著作権管理を通し、全学的な知的財産管理母体となることを目指しています。

メディア教育開発センターは、教授資料の収集や教材・コースウェアの開発、また授業現場への支援や授業アーカイブ・教材などの公開用システム開発を通し、教員との協働体制を取りうる、教育・授業方法の専門家(Instructional Designer)集団となることを目指しています。

2008年度 総合情報センター業務報告

1. 運営委員会

平成20年4月1日に旧図書館と情報メディアセンターが統合され、新たに大妻女子大学総合情報センターが発足した。改組に伴い、平成20年4月24日、図書館及び情報メディアセンター合同の運営委員会を開催し、各グループの平成19年度業務報告・決算報告、大妻女子大学総合情報センター規程（案）、平成20年度総合情報センター運営委員の選出などについて審議をおこなった。

その後、各学部から4名の総合情報センター運営委員を選出してもらい、6月13日に第1回総合情報センター運営委員会（於：千代田校図書館）を開催、次いで第2回運営委員会を9月22日に文書回覧にて行った。

2. 2008年度 私立大学等経常費補助金

総合情報センターでは平成20年度に以下の申請をし、補助金を得た。

◆学部教育の高度化・個性化支援

単位：円

項 目	担 当 部 署	件 数	年間所要経費	補助金内示額
教育・学習方法等改善支援 大学対象	メディア教育開発G	1	2,315,000	1,099,000
合 計			2,315,000	1,099,000

[内 容]

千代田校A棟150、155、157、250教室を、双方向メディアネットワークで結ぶことにより、4教室を統合して一つの総合教育環境として活用することを可能とした。具体的には①各教室で行われる授業、行事などの映像、音声を一カ所で収録することができ、授業改善のための授業アーカイブ化に役立つ。②各教室の授業、行事などの映像、音声を4教室内の任意の教室にリアルタイムで送出することができ、比較的大規模で行われる学内の授業、行事などの参加人数制限を緩和することができる。③上記各教室の授業、行事などの映像、音声に限らず、そこで提供される提示物についても、送出ソースの切り替えで、任意教室にオリジナルと同等の画質、音質で送出できるようになった。



◆高度情報化推進

単位：円

項 目	担 当 部 署	件 数	年間所要経費	補助金内示額
情報通信設備（借入）支援 大学対象	メディア教育開発G	10	76,901,000	37,949,000
情報通信設備（借入）支援 短期大学部対象	メディア教育開発G	4	17,199,000	8,389,000
教育学術情報ネットワーク支援 大学対象	図書館G	1	4,912,000	2,397,000
教育学術情報ネットワーク支援 大学対象	メディア教育開発G	1	14,625,000	7,290,000
教育学術情報ネットワーク支援 短期大学部対象	図書館G	1	730,000	300,000
教育研究用ソフトウェア 大学対象	メディア教育開発G	12	34,800,000	16,877,000
教育研究用ソフトウェア 短期大学部対象	メディア教育開発G	3	2,939,000	1,298,000
教育研究情報利用支援 大学対象	図書館G	6	8,743,000	4,095,000
合 計			160,849,000	78,595,000

[内 容]

「情報通信設備（借入）支援」の対象は、各キャンパスの情報処理実習室、語学関係教室（CALL・LL）、情報処理用自習施設などに設置されているコンピュータや視聴覚機器、ネットワーク設備などをファイナンスリース契約（60ヶ月）で導入する際の年間経費に対する補助である。また、上記施設内コンピュータにインストールされる「Office」や「一太郎」、マルチメディアやプログラミングなどのために必要なアプリケーションソフト導入に必要な経費も「教育研究用ソフトウェア」分として同様の扱いとなる。

「教育学術情報ネットワーク支援」は、図書館内、情報処理実習室内ネットワークの運用コストに対する補助であり、また、「教育研究情報利用支援」は、電子ジャーナル、新聞、辞書、書籍情報、書誌情報データベースなどの利用料を対象とした補助である。

3. 総合情報センターホームページ維持・管理

総合情報センターURL 〈<http://www.cemit.otsuma.ac.jp/>〉を参照のこと。

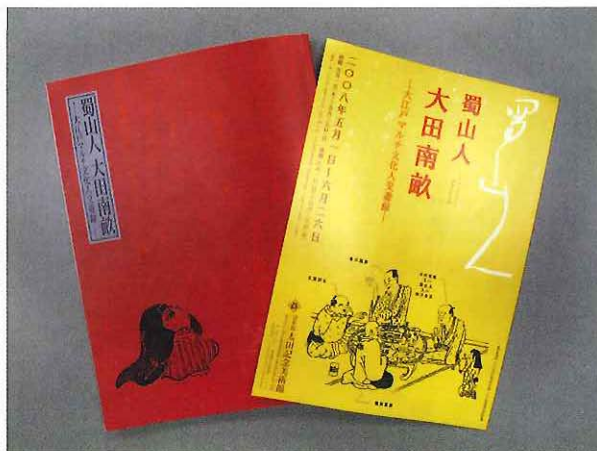


2008年度 総合情報センター 〈図書館グループ〉業務報告

■ 図書館グループ

業務記録 (2008/4/1～2009/3/31)

目 付	業 務	キャンパス
4/1	総合情報センター発足	
4/14～4/25	図書館見学ツアー、OPAC説明会	千代田・狭山台・多摩
4/18	文系図書委員会 (第1回)	千代田
4/24	図書館・情報メディア合同運営委員会	千代田
5/1～6/6	「大田南畝展」(太田記念美術館) 資料貸出	
5/12～5/30	データベース検索入門	千代田
5/18	オープン・キャンパス	多摩
6/13	総合情報センター運営委員会	
6/22	オープン・キャンパス	千代田・多摩
7/7	関東信越厚生局調査 (管理栄養士設置関係)	千代田
7/14	梶井基次郎未定稿購入	
7/20	オープン・キャンパス	千代田・多摩
7/22～9/22	夏休み貸出	千代田・狭山台・多摩
7/30	唐木田図書館懇談会	
8/1～8/28	梶井基次郎未定稿画像デジタル化	千代田
8/3	オープン・キャンパス	多摩
8/10	オープン・キャンパス	千代田・多摩
8/17	オープン・キャンパス	多摩
10/5	オープン・キャンパス	千代田・多摩
10/14～10/31	卒論・卒研のためのデータベース検索入門	千代田
10/18	ドナルド・キーン氏来館、著書の展示	千代田
11/2	オープン・キャンパス	千代田・多摩
11/17～12/6	図書館を活用しようキャンペーン	千代田・狭山台・多摩
11/20～11/22	「大妻女子大学所蔵資料展 梶井基次郎の手迹と荷風、漱石の番町」(於:区立千代田図書館) 梶井基次郎原稿展示	
11/21	文系図書・紀要委員会 (第2回)	千代田
12/8～1/16	冬休み貸出	千代田・狭山台・多摩
3/2～4/17	春休み貸出	千代田・狭山台・多摩



図書館の2008年度を振り返って

図書館グループ
課長 石川理恵子

2008年度の主な業務と催しを紹介する。

1. 大田南畝展へ資料貸出し

2007年度末に渋谷区神宮前にある「太田記念美術館」より5月から6月にかけて行われる「蜀山人 大田南畝 大江戸マルチ文化人交遊録」の展覧会に本学の所蔵する資料10数点を展示したい旨の申し入れがあった。

それを受けて、「大田南畝賛 大田南畝印譜」「夷歌連中双六」他10数点を貸出し、展示された。同展図録は図書館に寄贈されている。(6ページ写真左)

本学の大田南畝資料は、国文学科(現日本文学科)に在籍の故濱田義一郎名誉教授が個人的に収集し図書館に寄贈された「濱田義一郎文庫」の中に貴重なものが多くある。

2. 梶井基次郎購入資料のデジタル化と梶井基次郎資料展

本学図書館はかねてより、梶井基次郎の原稿・書簡・遺品について収集を進めてきたが、今年度は未定稿と書簡200数点を高額資料として購入した。これらはかなり傷みがある資料であったため、早急にデジタル化しておく必要があった。

そこで、図書館は機材をメディア教育開発グループより借用し、夏休み期間を中心にデジタル化をおこなった。

本年は本学創立100周年を記念して様々な行事が行われたが、その一環として文学部日本文学科・短期大学部国文科主催、千代田区共催の「梶井基次郎資料展」が11月20日～22日に千代田区立図書館で開催された。その時に配布された資料として「梶井基次郎資料展図録」があり、その中に上記デジタル化した資料が掲載された。

また、同展に梶井基次郎関係資料の「秘やかな楽しみ」「戯曲 河岸」等数十点を貸出すにあたり、損害保険契約を結んだ。

3. ドナルド・キーン氏来館

10月18日(土)、大妻学院100周年記念学術講演会が企画され、日本文学研究家でコロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン氏が「日本文化と女性」と題した講演を行った。当日は学生、生徒、教職員その他、学外者も多数参加し本学講堂を満席とする盛会な催しとなった。講演会終了後、キーン氏には千代田校図書館を来訪され、本学所蔵の貴重資料である、栞形本「源氏物語」、奈良絵本「聖徳太子伝」等を閲覧された。

図書館所蔵のキーン氏著書、約30冊をカウンターに展示し、キーン氏からはその著書にサインをいただいた。(6ページ写真右は自著に署名するドナルド・キーン氏)

2008年度 総合情報センター 〈図書館グループ〉業務報告

図書館統計

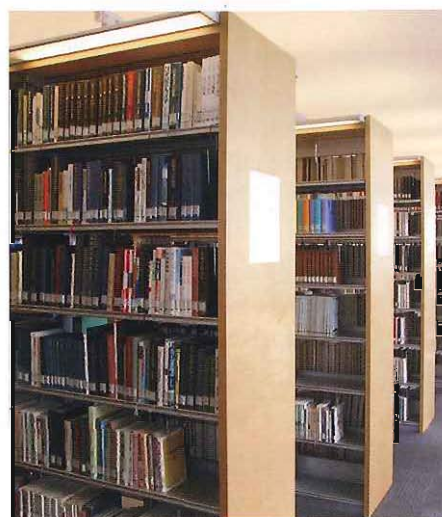
1. 図書所蔵数

2009.3.31現在 (単位：冊)

	千代田	狭山台	多摩	合計
和書	139,567	86,233	92,138	317,938
洋書	37,182	20,140	25,345	82,667
合計	176,749	106,373	117,483	400,605

※雑誌製本を除く
※消耗・千鳥会を含む

今年度末、図書資料の各図書館と全体の所蔵数を表す。
蔵書数は全体で40万冊を超えた。



2. 配置別図書受入数

(単位：冊)

	和書	洋書	雑誌製本		消耗		千鳥会	合計	
			和	洋	和	洋			
千代田	3,298	440	298	135	259	14	356	4,800	(72)
狭山台	480	10	32	3	241	5	266	1,037	(26)
多摩	3,542	334	209	169	891	287	281	5,713	(22)
合計	7,320	784	539	307	1,391	306	903	11,550	(120)

※()内は寄贈図書

3館別の受入冊数。狭山台校の「千鳥会図書」(ベストセラー小説・旅行ガイド等)購入が学生数に比して多いのは在学年次が1年生のみで、学術書の購入が少ないためである。

多摩校の消耗資料は文庫・新書の購入によるものである。

また、全体として洋書の購入が少ない。

3. 分類別図書受入数

(単位：冊)

	和書				洋書				合計
	千代田	狭山台	多摩	計	千代田	狭山台	多摩	計	
総記	311	15	145	471	52	5	30	87	558
哲学・心理学	128	10	218	356	23	2	42	67	423
歴史・地理	304	40	495	839	26	1	50	77	916
社会科学	837	103	1,027	1,967	56	2	93	151	2,118
自然科学	283	70	314	667	29	0	30	59	726
工学	181	30	363	574	17	0	12	29	603
産業	79	10	124	213	8	0	6	14	227
芸術・体育	199	27	233	459	12	0	13	25	484
言語	208	21	214	443	97	0	13	110	553
文学	768	154	409	1,331	120	0	45	165	1,496
合計	3,298	480	3,542	7,320	440	10	334	784	8,104

※雑誌製本・消耗図書・千鳥会図書を除く

日本十進分類法 (NDC) による分類別で、社会科学系と文学系の受入数が突出している。

4. 図書受入数の推移

(単位：冊)

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
和書	千代田	3,843	3,467	3,700	3,892	3,913
	狭山台	1,250	1,028	889	1,516	987
	多摩	2,769	3,092	2,939	4,473	4,714
	計	7,862	7,587	7,528	9,881	9,614
洋書	千代田	1,052	1,156	758	630	454
	狭山台	32	44	32	50	15
	多摩	539	492	579	234	621
	計	1,623	1,692	1,369	914	1,090
合計		9,485	9,279	8,897	10,795	10,704

※雑誌製本を除く
※消耗図書・千鳥会図書を含む

5年分を比較すると、昨年度から受入数が1万冊を超えるようになった。
大きな要因としては、購入資料の低価格化が考えられ、その分受入冊数が増加した。

5. 視聴覚資料所蔵数

2009.3.31 現在 (単位：点)

	視聴覚資料
千代田	1,860
狭山台	871
多摩	3,865
合計	6,596



6. 視聴覚資料受入数

(単位：点)

	CD	ビデオテープ	DVD	CD-ROM	DVD-ROM	合計
千代田	11	10	100	11	2	134
狭山台	6	0	20	1	1	28
多摩	55	6	128	40	5	234
合計	72	16	248	52	8	396

視聴覚資料は多摩校が以前から多数収集している。
今年度の受入数も多摩校が突出している。
今年度は比較文化学部予算での購入が多かった。

2008年度 総合情報センター 〈図書館グループ〉業務報告

7. 所蔵逐次刊行物タイトル数

2009.3.31現在 (単位:種)

	千代田	狭山台	多摩	合計
和雑誌	3,190	1,194	1,392	5,776
洋雑誌	721	502	434	1,657
合計	3,911	1,696	1,826	7,433



8. 継続購入逐次刊行物分類別タイトル数

2009.3.31現在 (単位:種)

	和雑誌				洋雑誌				合計
	千代田	狭山台	多摩	計	千代田	狭山台	多摩	計	
総記	64	29	56	149	26	4	14	44	193
哲学・心理学	5	2	16	23	11	1	16	28	51
歴史・地理	11	2	16	29	6	0	14	20	49
社会科学	101	25	87	213	43	0	57	100	313
自然科学	41	3	25	69	49	0	13	62	131
工学	39	12	26	77	11	1	6	18	95
産業	6	4	9	19	5	0	1	6	25
芸術・体育	38	4	13	55	7	0	5	12	67
言語	18	7	8	33	57	0	5	62	95
文学	71	20	26	117	54	0	5	59	176
合計	394	108	282	784	269	6	136	411	1,195

9. 継続購入逐次刊行物タイトル数推移

(単位:種)

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
和雑誌	千代田	366	355	362	385	394
	狭山台	110	107	111	110	108
	多摩	281	276	288	292	282
	計	757	738	761	787	784
洋雑誌	千代田	238	229	229	275	269
	狭山台	6	6	6	6	6
	多摩	152	133	132	137	136
	計	396	368	367	418	411
合計		1,153	1,106	1,128	1,205	1,195

逐次刊行物は全体で7,433種所蔵しているが、千代田校の所蔵数が最も多い。

また、その内容は図書と同じく社会科学系と文学系が多数を占めている。

この5年間の購入タイトル数は、多少の増減が見られる。

近年は外国雑誌費の高騰と国内雑誌の休刊・廃刊が（英語青年・国文学・月刊現代等）相次ぎ、大学図書館での所蔵のありかたを再構築する時期が迫っている。

10. 契約電子ジャーナル・データベース

契約電子ジャーナル
JournalWeb Science Direct JSTOR EBSCOhost

契約データベース	
新聞記事	聞蔵IIビジュアル 毎日Newsパック ヨミダス歴史館 Library PressDisplay 日経テレコン21
雑誌論文等	大宅壮一文庫 雑誌記事索引検索 Web版 日経BP記事検索サービス JapanKnowledge メディカルオンライン 第一法規法情報総合データベース 日本歴史地名大系 日国オンライン Literature Online MLA International Bibliography Literature Resource Center ProQuest Dissertations & Theses(人文社会系) Marquis Who's Who on the Web Books in Print with Book Reviews Women and Social Movements, in the United States 1600-2000

電子ジャーナル・データベースには来館しなくても手続きを行うと、自宅や研究室から利用可能なものが多くあるが、利用ごとに料金が発生する課金式のものに関しては、利用ルールの暗黙知が破られ、図書館から利用制限をかけなくてはならない状況が続いている。



2008年度 総合情報センター 〈図書館グループ〉 業務報告

11. 図書費決算報告

2009.3.31現在 (単位:円)

		予 算 額	執 行 額	残 額
家 政 系	被 服 学 科	3,326,200	2,705,852	620,348
	食 物 学 科	3,363,100	3,360,047	3,053
	児 童 学 科	3,375,400	3,117,334	258,066
	ライフデザイン	3,277,000	3,219,883	57,117
	短大・家政科	300,000	297,862	2,138
文 系	日 本 文 学 系	20,377,000	20,283,058	93,942
	英 文 系	18,864,000	18,699,831	164,169
	コミュニケーション	7,522,000	7,237,513	284,487
文系・家政系共通		9,072,000	9,071,004	996
多 摩	社 会 情 報 学 部	8,640,000	8,639,552	448
	人 間 関 係 学 科	3,471,000	3,299,571	171,429
	人 間 福 祉 学 科	2,060,000	1,939,460	120,540
	比 較 文 化 学 部	15,667,000	15,660,378	6,622
	共 通	6,048,000	6,029,102	18,898
附 置 研		1,800,000	1,451,852	348,148
図 書 館		10,555,320	10,065,150	490,170
合 計		117,718,020	115,077,449	2,640,571

※生活科学資料館：81,320は図書館に含む
※特別加算（補助金データベース収入）：2,981,000は図書館に含む

全体としては98%の執行であったが、恒例の年度末駆け込み購入依頼があり、洋書は年度内に納品が間に合わないものがあった。そのため、次年度予算に繰越さざるを得ない場合もでてくる。

12. 高額資料リスト

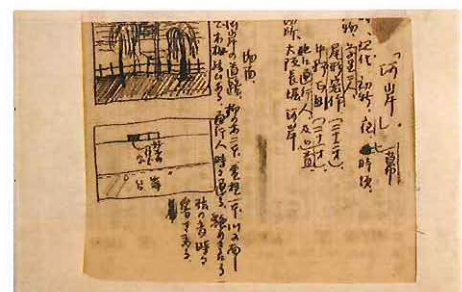
(単位:円)

形 態	書 名	数 量	金額(税込)	配 置
原 稿	梶井基次郎未定稿	一式	5,229,860	千代田
データベース	Literature Resource Center		1,092,378	
版 画	名所江戸百景	121枚	999,000	千代田
データベース	MLA international bibliography	4 ユーザー	832,650	
データベース	Academic Search Elite		800,000	
データベース	聞蔵IIビジュアル	2 アクセス	589,680	
DVD-ROM	婦人公論	1 セット	588,000	千代田
データベース	MLA international bibliography	1 アクセス	506,300	
洋 書	To-day and to-morrow	25巻	376,110	千代田
洋 書	DECOUVERTES等シリーズ	120冊	329,188	多 摩
和 書	日本世相語資料事典	17冊	307,125	千代田
洋 書	The international encyclopedia of communication	12冊	304,500	千代田
合 計			11,954,791	

(¥,300,000以上)

30万円以上で購入した資料を掲載した。梶井基次郎未定稿は本年デジタル化し、一部資料展に貸出した。

データベースの契約が高額資料リストに含まれるようになった。



13. 開館口数

(単位：日)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
千代田	265	282	281	287	289
狭山台	260	263	263	269	273
多摩	263	280	280	287	290

14. 入館者数

(単位：人)

	2007年度	2008年度
千代田	50,728	56,106
狭山台	18,522	22,638
多摩	51,532	51,986

開館は、日曜日のオープンキャンパス開館や祝日授業日開館を行い、夏期・冬期の休業中もできる限り開館するように努力している。

入館者は前年度に比べて、特に千代田校と狭山台校で増加している。

15. 学部別館外貸出人数

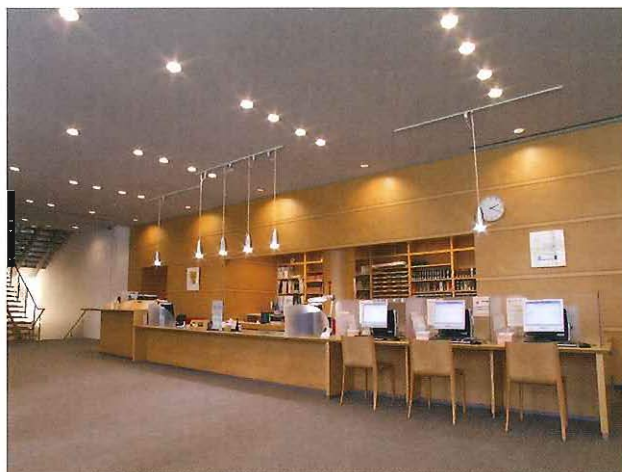
(単位：人)

家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	短期大学部	大学院
4,027	4,866	1,860	2,753	2,564	2,051	183

16. 貸出冊数

	年度	冊数	人数
千代田	2004年度	16,503	8,876
	2005年度	15,264	8,613
	2006年度	14,297	7,972
	2007年度	15,433	8,680
	2008年度	16,798	9,197
狭山台	2004年度	4,944	2,841
	2005年度	4,453	2,604
	2006年度	3,802	2,068
	2007年度	3,481	2,076
	2008年度	5,285	3,035
多摩	2004年度	14,357	7,508
	2005年度	12,949	6,844
	2006年度	13,909	7,347
	2007年度	14,798	7,675
	2008年度	14,836	7,630

※学生・教職員合計



貸出冊数、人数ともに減少した年もあったが、今年度は教職員への広報活動を強め、図書館見学ツアーや卒論文献検索ツアー等を行ったため、全館で利用が増加した。

2008年度 総合情報センター 〈図書館グループ〉業務報告

17. 逐次刊行物利用統計

所 属		冊 数	人 数	
千代田	文学部	日 文	1,033	453
		英 文	41	23
		コ ミ 文	256	79
	家政学部	被 服	39	15
		食 物	229	56
		児 童	164	37
		ライフデザイン	93	33
	多 摩		173	64
	短 大	国 文	266	122
		英 文	3	3
		家 政	45	12
	大 学 院	文 学	259	64
		家 政 学	20	11
		社会情報	0	0
	人間関係	0	0	
教 職 員	379	122		
そ の 他	286	99		
小 計	3,286	1,193		
多 摩	社会情報学部	183	77	
	人間関係学部	610	346	
	比較文化学部	98	66	
	千代田	17	5	
	大 学 院	文 学	0	0
		家 政 学	0	0
		社会情報	0	0
		人間関係	1	1
	教 職 員	113	63	
	そ の 他	35	17	
小 計	1,057	575		
合 計	4,343	1,768		



※バックナンバーのみ
 ※狭山台校は開架のため統計実施せず
 ※その他には中高・非常勤含む

18. 視聴覚資料利用点数

(単位：点)

	CD	音声テープ	ビデオテープ	LD	DVD	合 計
千代田	9	1	33	0	336	379
狭山台	9	0	46	3	223	281
多 摩	19	0	129	0	430	578

※所蔵・持込合計

逐次刊行物は千代田校では文系学生の利用が多く、多摩校では人間関係学部生の利用が多い。授業・レポート等の形態によるものと思われるが、他学部の利用も今後増やしていきたい。視聴覚資料は所蔵数の多い多摩校が利用数も多くなっている。

19. 学外相互協力

(単位：件)

		2006年度			2007年度			2008年度		
		紹介状	文献複写	資料貸借	紹介状	文献複写	資料貸借	紹介状	文献複写	資料貸借
千代田	依頼	53	82	0	34	102	2	40	75	4
	受付	26	154	0	29	111	0	34	75	0
狭山台	依頼	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	受付	0	1	0	0	0	0	0	0	0
多摩	依頼	65	862	0	31	279	6	14	213	13
	受付	5	20	0	2	16	0	1	16	0
合計	依頼	119	944	0	65	381	8	54	288	17
	受付	31	175	0	31	127	0	35	91	0

※謝絶を含む

今年度、千代田校の学外文献複写受付が減少した。

これは本学が国立情報学研究所のILLシステムに参加していない事と、他大学での電子ジャーナルの普及やCiNiiの利用が増え、学外へ依頼をしなくても良い環境が整って来た事を示している。

しかし、多摩校では複写依頼が多く、学内資料だけでは研究学習がまかなえていない状況を表している。



■ メディア教育開発グループ

改組・合併直後の一年間

メディア教育開発グループ
課長 榊淵富士子

2008年度は、総合情報センターとして図書館と情報メディアセンターが改組・合併し業務を開始した最初の年度で、従来、情報メディアセンターが担ってきた業務の整理と、新センター発足にともなう新規業務に道筋をつけることに終始した一年でした。情報メディアセンターは、昭和42年に文学部英文学科内に設置された「LL研究室」に端を発し、以来、幾度かの組織改変を重ねてきました。ただ、これほど大規模な改組は初めての経験で、全スタッフが今回の改組の意味を理解し、一丸となって改組後の様々な業務に取り組む体制づくりに明け暮れた一年でもありました。

特に、旧計算機部門から引き継いだ業務については、事前にシステム管理室や学生支援グループなどと十分な調整を行ったつもりでしたが、実際に業務を開始してみると、机上で練り上げた業務分掌の通りに進まないことが多く、問題が起きた時々で再調整が必要でした。現状ではPC関係のヘルプデスク業務として確立しつつありますが、先生方や助手の皆さん、学生達に、何をどの程度サービスするのかという問題があり、どこで線引きするかが今後の課題となると思われる。

新規業務と、従来業務の中で廃止する方向で検討するものについては、「大妻女子大学総合情報センターの設置に関する案（答申）」を常にバイブルとして、日々検討を続けていますが、特に今後導入が予想されるe-Learningや学習管理、遠隔授業などに必要なシステムについて、現状での規格製品調査と、それらがどの程度本学のニーズに合致するところまでカスタマイズ可能であるかについて調査を開始しています。

多摩総合情報センター
課長 山下恭子

平成20年4月、旧情報メディアセンター計算機部門スタッフ2名と学習支援部門スタッフ3名が一つになり、多摩校総合情報センターメディア教育開発グループとして、図書館棟3階で業務を開始しました。新組織の業務効率を考え、社会情報学部棟から図書館棟へのスタッフの引っ越し、教材制作用大型プリンターの移動や社情棟情報処理関係教室管理のためのネットワークカメラ設置など、主に業務環境面の整備を行いました。それと同時に、従来の2部門間での業務内容についての相互理解と確認、役割分担などの見直しも慎重に進めた一年でした。

主たる業務である授業支援では、従来通り情報処理関係教室、視聴覚教室AV機器の維持・管理や操作説明、授業で使用する教材制作などを行いましたが、それ以外に「ヘルプデスク」を開設し、PCや関連機器、アプリケーションに関する質問について教員・学生からの問い合わせに対応しました。特に2008年度は教員、学生を問わずUSBメモリーによるウィルス感染が多く発生し、それへの対応に多くの時間を費やしましたが、この件については、今後、全学的な手だてを勘案する必要があると思われます。

また、旧情報メディアセンター学習支援部門が担当していた「課外パソコン講習」、「課外英語力強化プログラム」については継続して実施し、特に「課外パソコン講習」では、例年通りの講座に加え、特別講座として「PowerPointプレゼンテーション講座」を多摩校での初めての試みとして開講しました。受講生は約10名と少数ではありましたが、その後のゼミや卒論での発表におおいに役立ったことと確信しています。

1. 授業支援

メディア教育開発グループでは、3キャンパスの語学関係教室（CALL・LL）・視聴覚教室・情報処理実習室・パソコン自習室や授業用情報システムの維持・管理・運用を担当し、それらの施設・設備を利用して行われる授業や学生の自発的学習が効率的、効果的に行われるよう以下の支援を行った。また、平成20年度の改組により学内システムの内、教育用情報システムについてはメディア教育開発グループが担当することとなり、そのために必要なネットワークの維持・管理・運用を行い、視聴覚機器やパソコン、ネットワークなどに関する教員・学生からの問い合わせについては、当初の予想を遙かに超える件数があったため、急遽その対応（学生指導含む）用にヘルプデスクを新設した。

1) 情報処理・語学関係実習室における授業への支援

[支援内容]

《キャンパス共通》

- ・情報処理関連教室の維持管理、運用
- ・統合認証システム（ADサーバ）維持管理、運用
- ・学内システム利用アカウント（教員等）の発行、管理
- ・ファイルサーバ（学生用・教員用ホームフォルダ、Publicフォルダ設定、管理）
- ・教員貸出用大妻Webメールアカウント管理
- ・学生からの質問、問い合わせへの対応
- ・教員及び助手からの質問、問い合わせへの対応
- ・プリンタ履歴システム管理、運用

《千代田キャンパス、狭山台キャンパス情報処理教室、情報処理自習室関係》

- ・授業補佐
- ・情報処理関係科目（教養教育）担当授業補助員のリクルート及び労務管理
- ・情報処理教室、情報処理自習室ホームページ（教室利用の手引き）更新

《多摩キャンパス情報処理実習室（社会情報学部、人間関係学部、比較文化学部）関係》

- ・実習室ホームページ更新
- ・教師用「実習室利用の手引き」作成

[教室使用状況]

《千代田キャンパス》

		前期	後期
情報処理教室	(4教室 [232, 235, 370, 373])	56時限/週	54時限/週
CALL教室	(1教室 [271])	9時限/週	9時限/週

《多摩キャンパス》

情報処理実習室	(4教室 [6215, 6218, 6254, 6256])	58時限/週	58時限/週
情報処理・LL教室	(5教室 [3225, 3230, 6315, 7217, 7237])	58時限/週	64時限/週
LL教室	(2教室 [3106, 6313])	13時限/週	13時限/週

《狭山台キャンパス》

情報処理教室	(1教室 [451])	13時限/週	13時限/週
CALL教室	(1教室 [456])	11時限/週	11時限/週

(上記時限以外に不定時の利用による授業支援あり)

2) 視聴覚教室における授業への支援

- ・視聴覚教室施設、設備の設計（事業計画予算申請等）
- ・視聴覚教室施設、設備の管理（メンテナンス実施、定期保守点検契約等）
- ・教員、職員、学生へ視聴覚教室施設・設備に対する取扱説明

千代田 (随時)
多摩 (随時)
狭山台 (随時)

3) 普通教室、実験・実習室における授業への支援

- ・視聴覚機器の貸出し・操作説明等 (定時、不定時)

4) スタジオ（含む、メディア制作ルーム）を利用する授業への支援

[支援内容]

- ・スタジオ利用授業の機器操作指導・補佐、番組制作のための機器貸出し・操作指導
- ・設置機器の維持管理・保守点検
- ・ビデオ編集作業の指導・補佐等

- 5) 遠隔授業に関する支援
 - ・ネットワーク多摩提携講座遠隔授業実施(朝日新聞提携講座、NHK提供講座、読売新聞提携講座)
 - ・首都圏西部単位互換提供科目配信のための撮影(前期)

- 6) ヘルプデスク

平成20年度より教員、助手、学生を対象にヘルプデスクを開設した。
サポート内容は以下の通りである。

 - ・パソコン及びプリンタ等の設定及び不具合対応
 - ・ネットワーク関連機器接続の設定及び不具合対応
 - ・アプリケーションに関する導入支援、操作説明等
 - ・ウイルス対策(ソフトウェア導入支援・操作説明、ウイルス駆除等)
 - ・メール全般に関する支援(送受信、転送設定等)
 - ・視聴覚教室等でのPC接続(出力設定、ネットワーク接続等)に関する操作説明
 - ・視聴覚教室等におけるAV機器(操作卓等)の操作説明

- 7) 情報処理自習室の維持・管理及び学生指導

全学パソコン自習室の維持・管理、運用、学生指導を以下のように行っている。
《情報処理自習室》

千代田校 情報処理自習室(本館地下2階) PC:60席
期 間:平成20年4月1日～平成21年3月31日 月～土
時 間:平日9:00～20:00 土曜9:00～17:00
利用者数:延べ49,828名

多摩校 情報処理自習室(図書館棟2階) PC:60席
期 間:平成20年4月1日～平成21年3月31日 月～金
時 間:9:00～16:10
利用者数:延べ22,132名

《メディア制作ルーム(本館8階)》 PC:12席 AV:2席
期 間:平成20年4月1日～平成21年3月31日 月～土
時 間:9:00～17:00
利用者数:延べ2,728名

※情報処理関係の自習のため情報処理自習室の他に関係教室を授業で使用していない時間は自習用として開放している。

- 8) 視聴覚及び情報処理関係施設、設備の維持・管理・運用
詳細は巻末の資料参考

- 9) 授業以外への機器貸出し・操作説明など
学外団体関連、学内各科・各種団体関係(各学部学会・講演会等、各種講習会)、事務局関係(入学式、卒業式、オープンキャンパス、各種ガイダンス、入試関係、学園祭等)など授業以外への機器貸出しや操作説明を行っている。

2. 補完教育

平成13年度以降、補完教育に係わる業務が情報メディアセンターの所管となったため、平成10年度より千代田・多摩キャンパスの学生課が担当していた「課外パソコン講習」を引き継ぎ、以後、毎年講座の種類、内容、資格試験などについて勘案し開講してきた。同様に、平成13年度より多摩キャンパス学生課担当で実施されていた「課外英語力強化プログラム」を、平成14年度から狭山台キャンパスで、平成15年度からは千代田・多摩キャンパスでセンター所管のもと開講してきたため、平成20年度の組織改編後も総合情報センターとしてその業務を引き継ぎ、両講座を実施した。

- 1) 課外英語力強化プログラム

本講座は学生が正規授業の履修状況にあわせて、毎日1コマ(40分)、週5日(年間100コマ)のスケジュール表を各自で作成し受講するプログラムで、毎回の講座の他に自由に会話ができるEC(English Challenge)の時間も用意されている。講座内容は、インタラクティブな活動を中心としたグループレッスン(12名前後)で構成されている。

平成20年度の担当講師は、北米（アメリカ、カナダ）、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの出身者で、英語を母語としない人への英語教授資格（TESOL、TEFL、CELTA等）の有資格者である。そのほか年2回（前期1回、後期1回）TOEIC IPテストを実施している。

平成20年度の講座実績は以下の通りである。

◆平成20年度受講者数 単位：人

千代田	112 (37)
多摩	153 (34)
狭山台	89
合計	354 (71)

*（ ）内は継続者数

TOEIC IP テスト実施については各自の英語力を確認することを目的としている。目的達成のためなるべく多くの学生に受験してもらい、その後の講座出席に役立ててもらえるように講座開始と共に日程を決め募集をしている。また通常の講座とは別にECの時間を使って試験の傾向と対策講座などを実施している。今後より多くの学生に受験を経験してもらうため、実施時期やアナウンス方法などを検討していきたい。

◆平成20年度TOEIC IP テスト受験者数 単位：人

	前期	後期	合計
千代田	19	27	46
多摩	29	32	61
狭山台	3	7	10
合計	51	66	117

◆平成20年度TOEIC IP テスト500点以上の学生数 単位：人

	前期	後期	合計
千代田	3	5	8
多摩	6	10	16
狭山台	2	2	4
合計	11	17	28

2) 課外パソコン講習

平成20年度はビジネスアプリケーション（Word、Excel）の基礎、応用、上級講座、プレゼンテーション（Power Point）、データベース、CG関連（Photoshop基礎）、Web作成とWebデザイン、初級システムアドミニストレータ試験（国家試験）対策など多様な講座を開講した。またその他に「日本語コミュニケーション講座」及び「電子会計実務講座」、「医療事務コンピューター講座」も実施した。

通常前期・後期とも5時限あるいは6時限目に実施しているが、夏季、春季休業期間を利用し集中講座も実施した。また各講座（国家試験対策講座等を除く）の最終回には実技試験と知識試験を実施し、合格者には認定団体より認定書を発行している。

平成20年度の講座受講者及び受験状況は下記の通りである。

◆平成20年度受講者数（延べ数） 単位：人

千代田	335
多摩	193
狭山台	20
合計	548 (417)

*（ ）内は資格取得者数



3. 教材制作

教材制作業務として、主に視聴覚教材の制作及び制作支援、各種素材のデジタル化を主に行っており、具体的には、ビデオ収録・編集、PC再生用のオーディオ・ビデオデータの制作、紙原稿・スライド等のデジタルデータ化・データ変換などを行った。印刷関係ではカラーコピー・拡大印刷などを中心に、また、アナログメディアとしてスライド・OHP用トランスペアレンシーの作成を行った。

以下は、平成20年度各学部・学科などから依頼された主な教材の制作数である。

教材制作依頼部署	内 容	年間制作数
千代田校 (8F)	音声関係	228本
	映像関係	1,161本
	PC関係 (紙原稿・スライド等のデジタルデータ) 化	721点
	印刷関係 (うち拡大印刷) (うちスライド・OHP用TP関係)	9,078枚 683枚 13枚
千代田校 (3F)	音声関係	20本
	映像関係	79本
多 摩 校	音声関係	93本
	映像関係	262本
	印刷関係 (うち拡大印刷)	317枚 292枚
狭山台校	音声関係	0本
	映像関係	13本

4. その他の業務

- 1) 入学試験関係業務
 - ・ Listening問題録音・編集
 - ・ 前日の試験会場音響確認
 - ・ 当日の試験会場音響確認、問題再生
- 2) 私立大学情報教育協会 (私情協) 関係
 - ・ 各種研修会案内の学内配布、参加申込受付
 - ・ 総会、その他、上記団体主催による会合出席
- 3) 各種調査への対応
 - ・ 平成19年度学術情報基盤実態調査回答 (文科省)
 - ・ 私立大学情報環境基本調査回答 (私情協)
 - ・ 平成19年度私立大学情報化投資金調査、私立大学高度情報化補助金活用調査回答 (私情協)
 - ・ リース会計処理変更に伴う情報関係補助金の激減緩和のための緊急調査回答 (私情協)
- 4) 各種研修会などへの参加
 - ・ 各種研修会、講習会
 - ・ 外国語教育メディア学会 (LET) など、関係学会
- 5) 100周年記念式典関係
 - ・ 舞台進行、進行台本確認
 - ・ 各種音源作成
 - ・ 記録 (35ミリ撮影、ビデオ撮影及び編集・DVD作成)
 - ・ 「100年のあゆみ」朗読台本作成、DVD作成 (構成、メディアからのコンバート、コピー)
- 6) 学内行事、他
 - ・ 平成21年度事業計画・予算申請書作成、提出
 - ・ オープンキャンパスサポート (千代田)
 - ・ 平成20年度入学式、卒業式関係業務 (舞台進行、進行台本確認、各種音源作成、スライド映写、記録)
 - ・ 学園祭関係業務 (打合せ、事前点検、機器貸出し、操作説明、事後点検など)
 - ・ 定期試験関係業務 (試験監督)
 - ・ 平成19年度沿革史原稿作成、提出
 - ・ ガイダンス用資料封入作業
 - ・ 全部署、各部署スタッフミーティング開催 (随時)

2008年度 総合情報センター決算報告

2008年度 総合情報センター決算報告

総合情報センターは、平成20年度経常予算として20,320,000円を申請し承認された。内、図書館グループは5,900,000円、メディア教育開発グループは3キャンパス4部署で14,420,000円の配分とした。主な執行内訳は、図書館グループでは、事務用機器・備品としてのノートパソコンやブックトラックなどの購入、書架の増設、雑誌の保管・保存のためのバックナンバーを製本するための製本費であった。

メディア教育開発グループは各キャンパスとも授業貸出用機器として需要が増加しているノートパソコンやDVDプレーヤを、また、教材制作に必要な大判プリンタ、事務処理用としてプリンタ数台をそれぞれ購入した。

特に平成20年度は大妻学院100周年記念事業が行われたため、その記録業務に必要な備品（ビデオカメラ、デジタルカメラなど）を購入した。

平成20年度の決算の執行状況は下記の通りである。

単位：円

	図書館 グループ	メディア教育開発グループ				決 算	予算額合計
		千代田 (8F)	千代田 (3F)	多 摩	狭山台		
機器・備品費	1,211,197	1,815,450	1,687,375	1,019,286	1,442,700	7,176,008	5,950,000
消耗品費	1,285,235	1,456,428	2,036,833	1,607,361	1,124,197	7,510,054	9,312,553
修 繕 費	601,056	5,250	13,965	24,150	0	644,421	1,350,000
雑 費	457,850	378,565	463,828	396,880	324,088	2,021,211	1,600,000
ソフト費	0	738,725	66,807	95,092	62,475	963,099	1,330,000
通 信 費	755,280	30,626	30,792	29,242	29,323	875,263	185,000
印刷・製本費	1,249,527	203,700	0	0	0	1,453,227	1,452,447
賃 貸 借 費	0	52,447	0	195,804	0	248,251	300,000
予算戻り分	0	▲1,161,605	0	0	0	▲1,161,605	▲1,160,000
合 計	5,560,145	3,519,586	4,299,600	3,367,815	2,982,783	19,729,929	20,320,000



2009年度 総合情報センター事業計画予算 採択結果について

2009年度 総合情報センター事業計画予算 採択結果について

図書館グループは補助金申請を行うことを条件に、図書館システムのリプレイスが承認された。現在使用している京セラ丸善株式会社「CALIS」からNEC「E-CatsLibrary」へシステムを切り替え、平成21年度9月から新しいシステムを稼働させる予定である。8月まで使用する「CALIS」に関しては、すでにリース期間満了となっているため経常費としての支出が減額になっている。

メディア教育開発グループは4件採択された。そのうち多摩校図書館棟情報処理自習室のアプリケーションバージョンアップは平成21年度前倒し申請のためすでに作業は終了している。千代校はA棟の視聴覚設置教室3教室の設備の更新と情報処理教室及び自習室の保守の2件が承認された。また多摩校情報処理自習室パソコン更新は平成21年度前倒し申請として承認されており、平成22年度事業計画として再度申請を行う予定である。

メディア教育開発グループから申請した「プリンタ履歴システム保守費用（3キャンパス分）」は承認されなかった。

平成21年度事業計画申請項目は下記の通りである。

1. 平成21年度予算での執行が承認された項目

◆図書館グループ

単位：円

件名	予算額	整理番号	備考
図書館システムリプレイス（千代田・狭山・多摩）	56,514,000	K-2	補助金申請 （レンタル検討、その場合レンタルの金額）

「経常費」（扱い）の増・減

単位：円

件名	21年度支出額	備考
CALIS業務サーバーリプレイス・リース料	△4,953,900	リース満了に伴う 減額

◆メディア教育開発グループ

単位：円

件名	予算額	整理番号	備考
多摩校 図書館棟情報処理自習室(4264)アプリケーションバージョンアップ	1,141,000	K-1	
千代田校 A棟3教室視聴覚施設・設備更新（450・564・664）	24,361,000	K-3	
千代田校 情報処理教室（232・235）・自習室（本012）保守	4,657,000	K-4	次年度以降経常費扱い
合計	30,159,000		

H21年度に前倒しのみ承認

単位：円

件名	申請額（参考）	備考
多摩校 図書館棟情報処理自習室パソコン更新	27,142,500	補助金申請（レンタル検討）

2. 平成21年度予算での執行が承認されなかった項目

◆メディア教育開発グループ

単位：円

件名	予算額	備考
プリンタ履歴システム保守費用（3キャンパス分）	2,715,930	

大妻女子大学 総合情報センター規程

平成20年5月29日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大妻女子大学学則（昭和48年4月1日制定）第39条第3項及び大妻女子大学短期大学部学則（昭和49年4月1日制定）第39条第2項の規定に基づき、大妻女子大学総合情報センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、大妻女子大学及び大妻女子大学短期大学部（以下「大学及び短期大学部」という。）共通の附属施設として、教育・研究に必要な図書、電子情報、その他各種資料（以下「図書資料」という。）を収集、所蔵し、教職員、学生等の利用に供するとともに、情報メディア環境を活用した教育・学習活動等への支援と、そのために必要な開発業務を行うことをもって、本学の教育・研究の充実発展に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 図書資料の収集、組織化、保管、利用者への提供、及び図書館間の相互利用に関する業務
 - (2) 大学及び短期大学部、並びに学校法人大妻学院（以下「学院」という。）が関与する著作権に関する業務
 - (3) 大学及び短期大学部教員に関する教育・研究用データベースの構築と教育・研究用外部資金確保に関する業務
 - (4) 情報メディア教育システムの企画・開発、維持・管理、安定的な運用及びセキュリティ維持に関する業務
 - (5) ネットワークなどの情報メディア環境を利用した教育・学習活動への支援とそれらに必要な開発業務
 - (6) 教職員に対する情報処理及び情報メディア教育関連の講習に関する業務
 - (7) 学生に対する情報処理及び情報メディア等の補完教育の計画、立案並びにこれらに関する業務
 - (8) 学院の要請による情報処理及び情報メディアに関する業務
 - (9) 前各号に掲げるもののほか、センターの運営に関する業務
- 2 前項の業務を行うため、センターに図書館とメディア教育開発センターの2施設及び総合情報センター事務部（以下「事務部」という。）を置く。事務部に図書館グループとメディア教育開発グループを置く。

(組織構成)

第4条 センターの組織は、次の構成とする。

- 2 センターに所長を置く。所長は、本学専任教授の中から学長が推薦し、理事長が任命する。
- 3 所長に事故のあるときは、所長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
- 4 センターに所長補佐を置くことができる。
- 5 事務部に、部長、課長、その他の職員を置く。
- 6 所長は、事務部を統轄し、センターの業務を掌理する。

(運営委員会)

第5条 センターの管理・運営の円滑化、効率化を図るため、センター運営委員会を置く。

- 2 センター運営委員会の規程は、別に定める。

(運営細則への委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、センターの管理・運営について必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、センター運営委員会の議を経て理事会において定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年5月29日から施行し、平成20年4月1日から適用する。
- 2 大妻女子大学図書館規則（昭和60年4月1日制定）及び大妻女子大学情報メディアセンター規程（平成13年5月25日制定）は、廃止する。

大妻女子大学 総合情報センター 運営委員会規程

大妻女子大学 総合情報センター 運営委員会規程

平成20年 6月13日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、大妻女子大学総合情報センター規程（平成20年 5月29日制定）第5条第2項の規定に基づき、大妻女子大学総合情報センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関して必要な事項を定める。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 総合情報センター（以下「センター」という。）の運営の方針及び大綱に関する事項
- (2) センター規程及びセンター運営委員会規程等の改廃に関する事項
- (3) センターの運営に関する予算の大綱に関する事項
- (4) 図書資料収集と管理の基本方針に関する事項
- (5) 情報処理及び情報メディア教育に関する施設設備の整備に関する事項
- (6) その他センターの運営に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター所長
 - (2) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び短期大学部長
 - (3) 各学部及び短期大学部から選出された専任教員 各2名
 - (4) 事務局長、教育・学生支援センター部長、多摩事務部長及び狭山台校事務長
 - (5) センター事務部部長、課長
 - (6) その他所長の委嘱する者 若干名
- 2 前項第3号及び第6号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置く。

- 2 委員長は、センター所長をもって充てる。
- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 委員長に事故のあるとき、または委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、センター事務部において処理する。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は、委員会において定める。

附 則

- 1 この規程は平成20年 6月13日から施行し、平成20年 4月1日から適用する。
- 2 大妻女子大学図書館運営委員会規程（昭和60年 6月1日制定）及び大妻女子大学情報メディアセンター運営委員会規程（平成13年 5月25日制定）は、廃止する。
- 3 平成20年度については、従前の図書館運営委員と情報メディアセンター運営委員を、本規程第3条第3号の委員とする。

	館長及び所長	図書館グループ	メディア教育開発グループ	学 院
昭和24年 (1949年)	初代館長 清水 福市 (S24.4-S45.9)	4月 大妻女子大学の新制大学移行と同時に発足 旧校舎2階に設置 開架閲覧方式		大妻女子大学設置 (家政学部被服学科・食物学科・家庭理学科・別科)
昭和32 (1957年)		3月 書庫充満のため書架増設		
昭和42年 (1967年)		4月 狭山台校開学 狭山台校分館発足 校舎3階	文学部英文学科内に音声言語教育のための機器、教材整備・充実のため「LL研究室」設置	狭山台校開設 文学部国文学科・英文学科、短期大学部国文科、英文科設置
昭和43年 (1968年)				大妻女子大学創立60周年記念式典挙行 (日本武道館)
昭和44年 (1969年)				
昭和45年 (1970年)	館長 加藤 菊雄 (S45.9-S49.3)	9月 千代田校本館完成図書館も本館1～2階に移動 開架閲覧方式に移行、学生用複写機稼動	教育・研究への視聴覚的手法導入に対する熱意の高まりにより、全学的組織「視聴覚教育専門委員会」開催	千代田校舎図書館棟新築完成 図書館研究室本館新築
昭和46年 (1971年)	初代所長 天野 一夫 (S46.4-S49.3)		「視聴覚教育センター」設立 設立に伴い「視聴覚教育専門委員会」を「視聴覚教育運営委員会」に改称。各学部で管理していた視聴覚機器を視聴覚教育センターで一元管理する。	
昭和47年 (1972年)			AAC型LL(フルラボ・オープンテーブ型ブース)教室設置—LL授業開始	
昭和48年 (1973年)			千代田校に[教材制作部][サービス部]、狭山台校に[サービス部]を設置	千代田校記念会館竣工
昭和49年 (1974年)	館長 廣田 榮太郎 (S49.4-S49.5) 館長 黒田 巍 (S49.11-S50.3) 所長 渡辺 修 (S49.4-S59.3)		授業にビデオ教材を使用するため貸出用機器の充実	
昭和50年 (1975年)	館長 吉田 精一 (S50.4-S51.3)		16ミリ発声映写機操作講習会実施	
昭和51年 (1976年)	館長 黒田 巍 (S51.4-S53.3)			
昭和52年 (1977年)				
昭和53年 (1978年)	館長 小幡 弥太郎 (S53.4-56.3)	狭山台校分館 増築増床		大妻女子大学創立70周年記念式典挙行 (日本武道館)
昭和54年 (1979年)				
昭和55年 (1980年)				
昭和56年 (1981年)	館長 吉田 精一 (S56.4-S59.3)			大妻女子大学人間生活科学研究所設置
昭和57年 (1982年)			千代田校AAC型LL教室をカセット型に改修	
昭和58年 (1983年)		5月 狭山台校分館 保存書庫竣工		狭山台校保存書庫棟竣工
昭和59年 (1984年)	館長 仙波 千代 (S59.4-S63.3) 所長 仙波 千代 (S59.4-S60.3)		狭山台校AAC型LL教室をカセット型に改修	
昭和60年 (1985年)	所長 磯田 浩 (S60.4-S61.3)		「情報処理・視聴覚教育センター」に名称変更	
昭和61年 (1986年)	所長 仙波 千代 (S61.4-S63.3)			千代田校A棟、大妻体育館竣工
昭和62年 (1987年)				
昭和63年 (1988年)	館長 加藤 憲一 (S63.4-H2.3) 所長 坂下 潔 (S63.4-H5.3)	4月 多摩校開学 図書館棟4階に多摩校分館発足	多摩キャンパス開校に伴い 情報処理・視聴覚教育センター[サービス部]設置 多摩校でパソコン使用の授業が始まり情報処理関係教室の管理実施。 LL教室1教室、情報処理教室1教室、スタジオ等設置	多摩校開設 短期大学部 (生活科、日本文学科、実務英語科)設置 千代田校B棟竣工
平成元年 (1989年)				大妻女子大学創立80周年記念式典挙行 (日本武道館)
平成2年 (1990年)	館長 隈部 直光 (H2.4-H4.3)			千代田校旧校舎閉鎖 C棟竣工
平成3年 (1991年)			千代田校教養科目『情報処理概論』の授業開講のためサポート開始	

	館長及び所長	図書館グループ	メディア教育開発グループ	学 院
平成4年 (1992年)	館長 伊藤 博 (H4.4-H8.3)	9月 学長の諮問により、図書館及び情報処理・視聴覚教育センター合同運営委員会開催し、情報処理・視聴覚教育センターの改革案を審議する。 結果、情報処理・視聴覚教育センターサービス部門と社会情報学部計算機室を合併、「情報処理教育センター」とする。 千代田校の教材制作部は「教育工学開発室」とする。 図書館は現スタッフのレベルアップをはかりながら、視聴覚資料の整備、情報システムを活用した他大学との学術情報交流を推進する。		社会情報学部社会情報学科設置 千代田校D棟、大妻講堂竣工
平成5年 (1993年)	所長 磯田 浩 (H5.4-H6.3) 初代室長 伊平 保夫 (H5.4-H12.3)		「情報処理教育センター」設立 2部門4部署 千代田校・狭山台校にサービス部門、多摩校に計算機部門・サービス部門を設置 「教育工学開発室」設立(千代田校) ネットワーク名称をKOTAKA-netと命名 多摩校-TRAIN(東京地域アカデミックネットワーク)接続 千代田校A棟視聴覚教室を映像ネットワークにより接続	
平成6年 (1994年)	所長 野崎 昭弘 (H6.4-H8.3)	4月 図書館ネットワーク開始 8月 千代田校本館1階改修工事 10月 卒論・卒研のための図書館利用指導開始		
平成7年 (1995年)		2月 千代田校本館2階改修工事 視聴覚コーナー設置 4月 図書館ツアー等の利用指導開始 7月～電算化CALISシステム事務用本稼働		
平成8年 (1996年)	館長 野崎 昭弘 (H8.4-H10.3) 所長 白川 利昭 (H8.4-H12.3)	4月 CALIS閲覧システム本稼働・BDS装置3館に設置 5月 狭山台校分館新図書館開館(旧研究棟を改修)	多摩校・千代田校ダイヤルアップ接続KOTAKA-net開始	狭山台校図書館棟竣工
平成9年 (1997年)			情報処理教育センター主催による英検対策講座、パソコン対策講座開催(千代田校)	
平成10年 (1998年)	館長 江本 裕 (H10.4-H14.3)		千代田校C棟情報処理実習室KOTAKA-netへ接続	大妻女子大学創立90周年記念式典挙行(東京国際フォーラム) 人間関係学部(人間関係学科、人間福祉学科) 比較文化学部(比較文化学科)設置 多摩校学生会館竣工 草稿・テキスト研究所設立
平成11年 (1999年)				
平成12年 (2000年)	所長 村上 弘幸 (H12.4-H15.3) 室長 村上 弘幸 (H12.4-H13.3)	多摩校分館改修増床 3階～4階を図書館に		
平成13年 (2001年)			「情報メディアセンター」設立 情報処理教育センターと教育工学開発室が合併改組する千代田校に学習支援部門・教材制作部門、多摩校に計算機部門・学習支援部門、狭山台校に学習支援部門を設置 補完教育「課外パソコン講習」「課外英語力強化プログラム」をセンター所管のもと開始	ネットステーション導入
平成14年 (2002年)	館長 栗原 裕 (H14.4-H16.3)	千代田校大校舎-新図書館棟 NTTスーパーワイドLANで接続	千代田校に情報メディアセンター 計算機部門設置	家政学部ライフデザイン学科、文学部コミュニケーション文化学科設置 千代田校短期大学部家政科第二部廃止 家政学部、文学部2年生履修地狭山台校から千代田校に変更
平成15年 (2003年)	所長 玉井 浩 (H15.4-H19.3)	1月 千代田本館新図書館棟に移転地下2階～地上4階を図書館に入退館システム導入 地下1階にメディアコーナーを設置 パソコン40台と視聴覚コーナー設置	各キャンパス各教室情報コンセントでKOTAKA-net接続開始	
平成16年 (2004年)	館長 渡部 満彦 (H16.4-H20.3)	4月 文系共同図書室 千代田校図書館4階に仮設置		
平成17年 (2005年)			統合認証システム稼働	事務組織にグループ制導入 大妻学院将来構想検討委員会発足 生活科学資料館設置
平成18年 (2006年)				
平成19年 (2007年)	所長 伊藤 朋泰 (H19.4-H20.3)			
平成20年 (2008年)	所長 栗原 裕 (H20.4～)	将来構想検討委員会の答申に基づき「情報メディアセンター」と「図書館」が合併改組される。 【計算機部門】の一部と【教材制作部門】【学習支援部門】は【メディア教育開発グループ】となる。 また計算機部門業務の一部はIT化推進室と統合され事務局に新設された「システム管理室」となる。		大妻学院創立100周年
平成21年 (2009年)		「総合情報センター」設立 【千代田校・狭山台校・多摩校 図書館グループ】 【千代田校・狭山台校・多摩校 メディア教育開発グループ】 「システム管理室」設立 9月 CALISシステムから新システムE-CatsLibraryへ移行予定		

総合情報センターが管理する学内施設・設備一覧

総合情報センターが管理する学内施設・設備一覧

【千代田キャンパス－大学校舎、本館】

階	棟	施設仕様	教室	収容数	施設タイプ/特記事項
1F	A棟	視聴覚教室	150	315名	操作卓仕様、特注システム 150, 155, 157, 164, 166, 250, 252, 264教室間はネットワークで結ばれ、映像、音声配信可 150教室のみプロジェクタ、プラズマTV(教室後方)両用による提示可
			155	168名	
			157	132名	
			164	135名	
			166	107名	
	C棟	モニターTV教室	182	90名	VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 2台)
2F	A棟	視聴覚教室	250	80名	操作ラック仕様、特注システム、液晶TV
			252	150名	操作卓仕様、特注システム
			254	150名	操作ラック仕様、特注システム
			257	150名	
			264	135名	操作卓仕様、特注システム、プラズマTV
			266	107名	操作ラック仕様、特注システム
	B棟	情報処理教室	232	68名	Comschool仕様個別指導、教材一斉配信、回収可
			235	32名	CADシステム、大判プリンタ、製図台設置
		モニターTV教室	242	79名	VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 1台)
	246	78名			
	C棟	CALL教室	271	64名	デジタル、アナログ両タイプLL授業可
モニターTV教室		281	32名	[ゼミ室]VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 1台)	
		282	28名		
3F	A棟	モニターTV教室	357	42名	[ゼミ室]VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 1台)
		視聴覚教室	366	168名	操作ラック仕様、特注システム
	C棟	情報処理教室	370	60名	PC@LL仕様個別指導、教材一斉配信、回収可
			373	60名	OS: WindowsXP
4F	A棟	視聴覚教室	450	72名	操作ラック仕様、特注システム
			455	108名	操作ラック仕様、既成システム
			457	108名	
			464	135名	操作ラック仕様、特注システム
			466	107名	操作ラック仕様、既成システム
5F	A棟	視聴覚教室	553	108名	操作ラック仕様、既成システム
			555	108名	
			557	108名	
			564	72名	操作ラック仕様、特注システム
	モニターTV教室	565	72名	VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 1台)	
		567	71名		
6F	A棟	視聴覚教室	653	108名	操作ラック仕様、既成システム
			655	108名	
			657	108名	操作ラック仕様、特注システム
			664	72名	
地1	校舎地下アトリウム		音響システム装置(反響の少ないラインアレイスピーカシステム設置)		
地2	本館	情報処理自習室	B01	60名	OS:WindowsXP
1F		モニターTV教室	101	81名	VHS、DVD再生可(29inchモニターTV 1台)
8F		スタジオ	801	—	映像・音声調整卓(アナログ)設置
	メディア制作ルーム	801	12名	学生によるコンテンツ製作用施設	

※1) 455, 457, 466, 553, 555, 557, 653, 655, 657教室は文学部事業計画により導入。モニターTV教室5教室とあわせて、管理を教育支援グループより委託された教室。

2) 視聴覚教室はすべて持ち込みPC接続可。「施設タイプ」欄に記載の無いものは、提示物をプロジェクタによりスクリーンに投影。

【千代田キャンパス－図書館棟】

階	施設仕様	座席数	施設タイプ／特記事項	
地下	PCコーナー	40席	プリンター 3台	
1F	AVブース	27席	ビデオ・DVD・CD	
1F	事務室、メインカウンター、検索コーナー、新着本コーナー、展示ケース、他			
2F	閲覧席	109席		
	開架書架、レファレンスカウンター、大型本、参考図書、検索・コピー各コーナー、他			
3F	閲覧席	122席		
	閲覧ブース	3席		
開架書架、レファレンスカウンター、絵本、検索・カラーコピー各コーナー、他				
4F	閲覧席	81席		
	グループ閲覧室	30席		
開架書架、新着雑誌、寄贈雑誌、新聞、検索・コピー各コーナー、他				

【狭山台キャンパス－1号館、2号館】

階	棟	施設仕様	教室	収容数	施設タイプ／特記事項
1F	2号館	視聴覚教室	154	336名	操作卓仕様、特注システム
2F	1号館	モニターTV教室	201	53名	202室から移動設置可
			202	40名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			203	40名	204室から移動設置可
			204	49名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
	2号館	モニターTV教室	205	164名	操作ラック仕様、特注システム
			206	164名	
			208	210名	
			209	140名	
2号館	モニターTV教室	251	79名	VHS、DVD再生可 (25inchモニターTV 2台)	
		253	78名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 2台)	
3F	1号館	モニターTV教室	302	56名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			303	56名	302室から移動設置可
			304	40名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			305	49名	304室から移動設置可
4F	2号館	モニターTV教室	452	129名	VHS、DVD再生可 (25inchモニターTV 2台)
		情報処理教室	451	76名	Comschool仕様個別指導、教材一斉配信、回収可
		CALL教室	456	64名	PC@LL仕様個別指導、教材一斉配信、回収可

※ 1) 視聴覚教室はすべて持ち込みPC接続可。

【狭山台キャンパス－図書館棟】

階	施設仕様	座席数	施設タイプ／特記事項	
1F	閲覧席	44席		
	AVコーナー	21席	ビデオ・LD・DVD・CD	
事務室、PC、開架書架、参考書架、新着雑誌コーナー、検索・コピー各コーナー、他				
2F	閲覧席	78席		
	キャレル	20席		
開架書架、検索コーナー、他				
3F	キャレル	8席		
開架書架、他				

総合情報センターが管理する学内施設・設備一覧

【多摩キャンパス】

棟	階	施設仕様	教室	収容数	施設タイプ/特記事項
比較文化学部棟	1 F	視聴覚教室	3100	120名	操作卓仕様、特注システム
		LL教室	3106	60名	
		視聴覚教室	3122	240名	操作卓仕様、特注システム (43inchプラズマTV 2台)
			3127	132名	操作卓仕様、特注システム
	3130		130名		
	2 F	モニターTV教室	3200	66名	操作ラック仕様、既成システム (29inchモニターTV 2台)
			3203	28名	(ゼミ室) VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			3206	57名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
		視聴覚教室	3208	57名	操作ラック仕様、既成システム
			3220	69名	操作ラック仕様、既成システム
		モニターTV教室	3223	57名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			情報処理・LL教室	3225	60名
	3230	50名		OS: WindowsXP	
	3 F	モニターTV教室	3300	84名	操作ラック、既成システム (29inchモニターTV 2台)
			3303	28名	(ゼミ室) 操作ラック、既成システム仕様 (42inchプラズマTV 1台)
			3306	57名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
		視聴覚教室	3308	57名	操作ラック仕様、既成システム
			3320	69名	操作ラック仕様、既成システム
		モニターTV教室	3323	57名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
		視聴覚教室	3329	39名	(ゼミ室) 操作ラック仕様、既成システム
モニターTV教室		3331	39名	(ゼミ室) VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)	
図	2 F	情報処理自習室	4264	60名	OS: WindowsXP
社会情報学部棟	1 F	視聴覚教室	6113	325名	操作卓仕様、特注システム (43inchプラズマTV 2台)
			6153	175名	操作卓仕様、特注システム
	2 F	情報処理実習室	6215	72名	Comschool仕様 個別指導、教材一斉配信、回収可 OS: WindowsXPとSUSEL inux Enterprise Desktopのディアルブート
			6218	72名	
			6254	64名	
			6256	64名	
		視聴覚教室	6220	125名	操作ラック仕様、既成システム
	6250		125名	操作卓仕様、特注システム	
	6252		80名	操作卓仕様、特注システム (29inchモニターTV 2台)	
	6253	80名			
	3 F	LL教室	6313	45名	OS: WindowsXP (PC40台)
情報処理・LL教室		6315	36名	Comschool(PC42台) 個別指導、教材一斉配信、回収可 OS: WindowsXPとSUSEL inux Enterprise Desktopのディアルブート	
		視聴覚教室	6320	175名	操作卓仕様、特注システム
人間関係学部棟	1 F	視聴覚教室	7114	151名	操作卓仕様、特注システム
			7127	300名	
	2 F	視聴覚教室	7214	151名	操作卓仕様、特注システム
			7217	64名	
		情報処理・LL教室	7237	64名	OS: WindowsXP
			視聴覚教室	7247	110名
		7262	52名	操作ラック仕様、既成システム	
		モニターTV教室	7283	33名	操作ラック仕様、既成システム (42inchプラズマTV 1台)
		視聴覚教室	7284	52名	操作ラック仕様、既成システム
	モニターTV教室	7286	52名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)	
	3 F	モニターTV教室	7313	52名	VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			7315	52名	
		視聴覚教室	7318	110名	操作ラック仕様、既成システム
			7338	110名	
7348			110名		

棟	階	施設仕様	教室	収容数	施設タイプ/特記事項
人間関係学部棟	3F	モニターTV教室	7368	36名	(ゼミ室) VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
			7381	36名	
			7382	36名	
			7383	36名	
			7384	36名	(ゼミ室) VHS、DVD再生可 (43inchプラズマTV 1台)
			7385	36名	
			7386	36名	(ゼミ室) 操作ラック、既成システム仕様 (42inchプラズマTV 1台)
			7387	36名	(ゼミ室) VHS、DVD再生可 (29inchモニターTV 1台)
7388	36名				

【多摩キャンパス—図書館棟】

階	施設仕様	座席数	施設タイプ/特記事項
3F	閲覧席	106席	
	メディアルーム	30席	PC12台、ビデオ・DVD・CD
	事務室、開架書架、参考書架、閉架式書庫、検索・コピー各コーナー、他		
4F	閲覧席	143席	
	学習室	54席	
	キャレル	6席	
	開架書架、閉架式書庫、地図コーナー、他		



2008年度 総合情報センター 運営委員

総合情報センター所長

家 政 学 部

文 学 部

社会情報学部

人間関係学部

比較文化学部

短期大学部

所長の委嘱する委員

事 務 局

(事務局長)

(教育・学生支援センター教育支援グループ担当部長)

(教育・学生支援センター学生支援グループ担当部長)

(多摩事務部長)

(狭山台事務室長)

総合情報センター

(部長)

(図書館グループ課長)

(図書館グループリーダー)

(メディア教育開発グループリーダー)

(メディア教育開発グループリーダー)





大妻女子大学 **総合情報センター** 年報
第1号 (2008年度)

2009年7月28日発行

編集・発行 大妻女子大学 **総合情報センター**

〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
TEL 03-5275-6013 (図書館)
TEL 03-5275-6085 (メディア教育開発センター)

印刷 勝美印刷株式会社